



安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための
装備について説明しています。

■ シート

正しい運転姿勢-----	38
フロント シート-----	39
リヤ シート-----	42
シート アレンジ-----	46

■ シート ベルト

正しい着用-----	47
3点式ELRシート ベルト-----	49
プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付 シート ベルト----	51

■ お子さま専用シート

チャイルド シート-----	52
チャイルド シートの選びかた-----	54
チャイルド シートの固定のしかた----	59

■ SRSエアバッグ

SRSエアバッグ-----	63
SRSサイド エアバッグ& SRSカーテン シールド エアバッグ---	69
SRSエアバッグ警告灯-----	73
SRSエアバッグ コンピューター-----	73

■ ABS

ABS (EBD機能付)-----	75
-------------------	----

■ VDC・TRC

VDC (ピークル ダイナミクス コントロール)-----	77
TRC-----	78

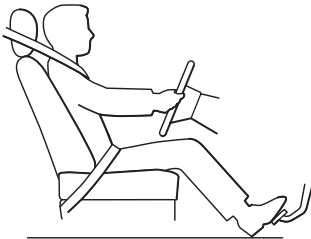


シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことにご注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背当てから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シートベルトが正しく着用できること
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること



⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対に行わないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背当てと背中 사이에クッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(シートベルト→ 47 ページ)

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。



フロント シート

⚠警告

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車の場合

- フロント シートに専用のスバル指定品以外を取り付けないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうとSRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
また、スバル指定シート カバー使用時には付属の取扱説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
- フロント シート表皮の張り替えやフロント シートの取り付け、取り外し、修理などを行わないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ずスバル販売店にご相談ください。

シート スライド調整

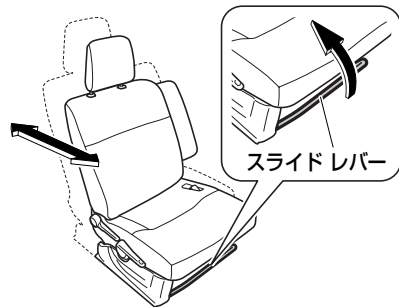
▼調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。





リクライニング調整

▼調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニングレバーを引き上げながら背当ての角度を調整します。



⚠注意

- リクライニングレバーを引き上げるときは背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをすることがあります。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。

ヘッドレストの調整

▼調整を行う前に

⚠警告

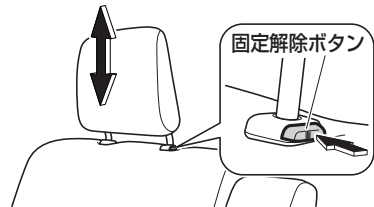
- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼調整方法

そのまま持ち上げて調整します。

下げるときは固定解除ボタンを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。

取り外すときは固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。





運転席シート リフター

シート全体の高さ調整を行うことができます。

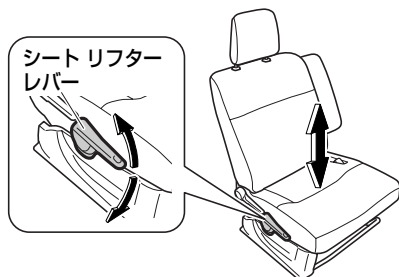
▼操作を行う前に

⚠警告

- 調整は必ず運転前に行ってください。走行中に調整を行うと思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

シート リフター レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇し、押し下げるとシート全体が下降します。



アーム レスト

オプション/グレード別装備

▼使用方法

前に倒して使用します。



📖アドバイス

- 小物入れとして使用することもできます。
(フロント アーム レスト (ボックス付)
→ 234 ページ)
- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アーム レストも同時に動きます。

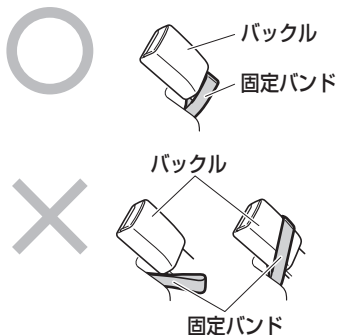




リヤ シート

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロント シートの背当てより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。
- リヤ シート ベルトのバックルの固定バンドを外したり、バックル本体にかけたりしないでください。バックルがシート下に落ちて、シート ベルトが使用できなくなるおそれがあります。

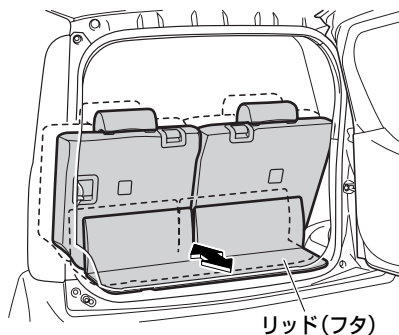


シート スライド調整

▼調整を行う前に

⚠注意

- スライド調整は必ず停車中に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リッド（フタ）はリヤ シートと連動して動きます。リヤ シートのスライド調整をするときは、下記のことにご注意してください。
- カーゴ ルームで作業している人が、手を挟むおそれがあるので注意してください。
- リッド（フタ）に置いた荷物が倒れるおそれがあるので注意してください。



📖アドバイス

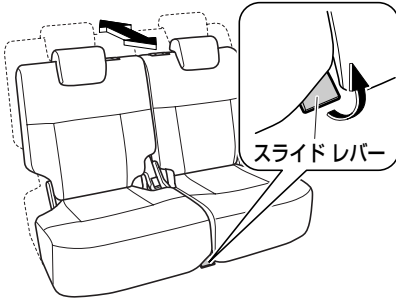
- シートをスライドさせるとき、左右両側のシートが一体で動きます。



○リヤ シート側から調整

▼調整方法

シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。



👉アドバイス

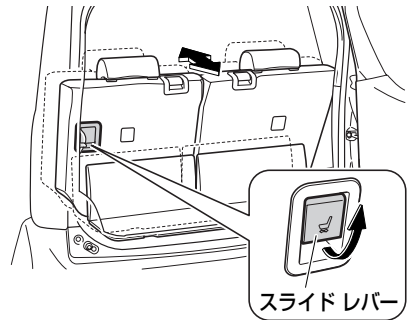
- スライド レバーが奥に隠れているときは、レバーの先端を前に引き起こしてください。

○カーゴ ルーム側から調整

カーゴ ルームの広さを調整するときに便利です。

▼調整方法

背当て裏側のスライド レバーを引き上げながら背当てを持って、前後にシートをスライドします。



⚠️注意

- リヤ シートに同乗者がいない状態で調整してください。



リクライニング調整

▼調整を行う前に

⚠注意

- リクライニング調整は必ず停車中に行い、調整後は背当てを軽くゆすり、背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと走行中に背当てが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引き上げながら、背当ての角度を調整します。



⚠注意

- リクライニング レバーを引き上げる時は背当てにあまり力をかけないでください。背当てに強い力がかかっていると急に背当てが倒れ、けがをすることがあります。



アドバイス

- 左右独立してリクライニング調整することができます。

▼背当てを元に戻すときは

⚠注意

- 背当てが急に戻るおそれがありますので、必ず背当てを手で押さえながら操作してください。

ヘッド レストの取り外し

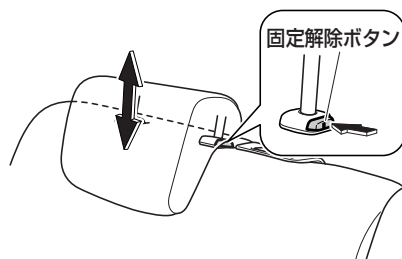
▼操作を行う前に

⚠警告

- リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けしないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼操作方法

取り外すときは、固定解除ボタンを押しながら引き抜きます。取り付けるときは、「カチッ」という音がする位置で固定してください。





背当ての前倒し

リヤシートを操作することで、カーゴルームを広くすることができます。

▼操作を行う前に

⚠警告

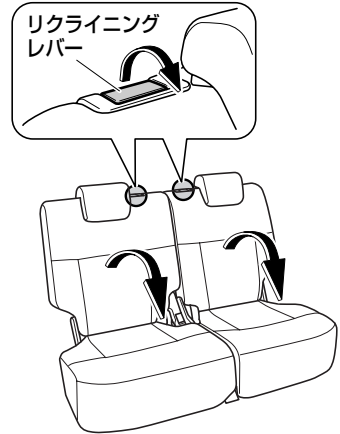
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 背当てを前に倒すときは、背当てが急に倒れるおそれがあります。必ず背当てを手で押さえながら操作してください。
- 倒した背当ての上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

▼操作方法

各リクライニングレバーを引き上げながら背当てを前に倒します。



▼元に戻すときは

背当てを引き起こします。

⚠注意

- 背当てが確実に固定されたことを確認してください。背当てが固定されていないと、走行中に背当てが動き思わぬけがをするおそれがあります。





シート アレンジ

ソフト フラット シートに するとき

オプション/グレード別装備

▼操作を行う前に

⚠警告

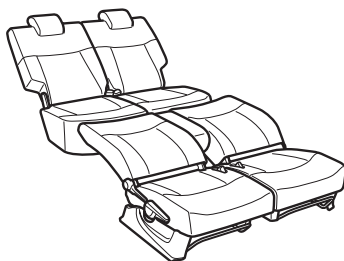
- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

- ソフト フラット シートにした状態で人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。
- ソフト フラット シートにした状態で、シートの上を動き回ったりしないでください。
- シートの上を移動するときは、足を踏み外すおそれがあり危険です。シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。
- ソフト フラット シート状態は安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。

▼操作方法

1. リヤ シートのヘッド レストを一番下の位置にします。
2. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。
3. リヤ シートの背当てを倒します。
4. フロント シートのヘッド レストを外します。
5. フロント シートを前方いっぱいまでスライドさせます。
6. フロント シートの背当てをリヤ シートのクッションと同じ高さになるまで倒します。



▼元に戻すときは

逆の手順で操作してください。

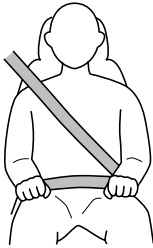


シートベルト

正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のこと
に注意してシートベルトを着用し、必ず
同乗者にも着用させてください。シート
ベルトは正しく着用しないと効果が半減
したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、
正しい取り扱い方を身に付けてくださ
い。



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



- お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。





⚠警告

- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 1人で座ることのできない乳幼児の場合はチャイルドシート（ベビーシート）（別売）を使用してください。
- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルドシート（別売）を使用してください。
（チャイルドシート→52ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた→59ページ）
- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをすることがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみをさげ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをすることがあります。

⚠警告

- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをすることがあります。



- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをすることがあります。
- ハンドルやメーターに必要以上に近づいて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。



⚠警告

- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、スバル販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、スバル販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



3点式ELRシートベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートベルトを調整します。
2. タングプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にタングプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



⚠警告

- 3点式ELRシートベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

⚠注意

- タングプレートを差し込むとき、タングプレートでバックルを無理にこじらないでください。



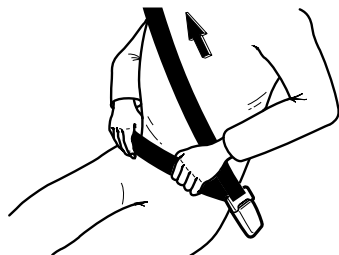


🔔 アドバイス

- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席シートベルトは、シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

（シートベルト警告灯
→ 140 ページ）

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。



▼ 外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどが無いかを確認します。



ショルダー アジャスター

シートベルトが肩に十分かかるように、シートベルトの高さを調整することができます。

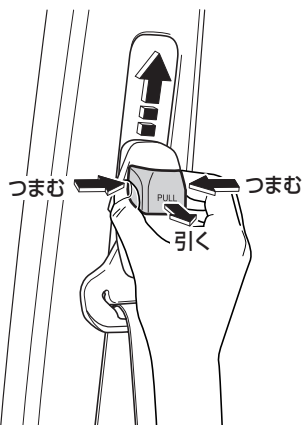
シートベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときに使用します。

▼ シートベルトを下げるとき

1. ノブの側面をつまみながら引き、ロックを解除します。
2. シートベルトを「カチッ」という音がする位置まで下げます。

▼ シートベルトを上げるとき

1. ノブの側面をつまみながら引き、ロックを解除します。
2. シートベルトを「カチッ」という音がする位置まで上げます。



🔔 アドバイス

- 4 段階に調整できますので、最適な位置で固定してください。



プリテンショナー& 可変ロード リミッター機構付 シートベルト

○フロントシート

⚠警告

- プリテンショナー&可変ロード リミッター機構付シートベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 無線機を取り付けるとき
 - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。

👉アドバイス

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

可変ロード リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- 可変ロード リミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのスバル販売店で交換してください。





お子さま専用シート

チャイルド シート

シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをご使用ください。

車両に固定するチャイルド シートには、シート ベルトで固定するタイプとISO* FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで固定するタイプがあります。

(チャイルド シートの固定のしかた
→ 59 ページ)

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。

アドバイス

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルド シートが不必要なお子さまは、リヤ シートに乗せてシート ベルトを着用させてください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

(チャイルド シートの種類→ 53 ページ)

チャイルド シートの 質量グループについて

ECE R44*の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

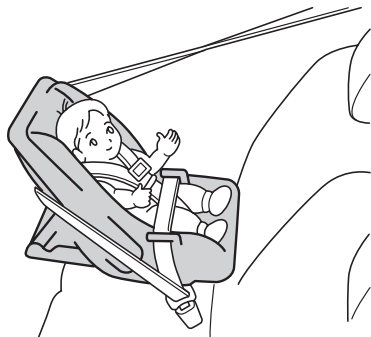
質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9~18kg
グループII	15~25kg
グループIII	22~36kg

* International Organization for Standardization
(国際標準化機構) の略

* チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。

**チャイルド シートの種類**

○ベビー シート

質量グループ 0、0⁺に相当します。

○チャイルド シート

質量グループ 0⁺、Ⅰに相当します。

○ジュニア シート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

(チャイルド シートの質量グループ
について→ 52 ページ)



チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

👉 アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、チャイルド シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シート ベルトで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0 (10kgまで)	X	U
0+ (13kgまで)	X	U
I (9~18kg)	X	U
II (15~25kg)	X	U
III (22~36kg)	X	U

●記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートが取り付け可能です。

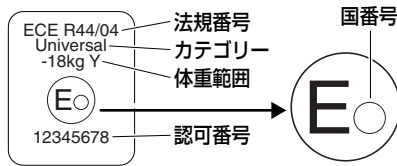
X : チャイルドシートを取り付けることはできません。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。



👉 アドバイス

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- ECE R44 に適合している「U」のチャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。





ISO* FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーで
取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
I (9~18kg)	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II (15~25kg)		—	X
III (22~36kg)		—	X

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルドシートのみ取り付け可能です。

IL：この質量グループでの使用を許可された準汎用カテゴリーのISO FIX対応チャイルドシートのみ取り付け可能です。

X：ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることはできません。

* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略



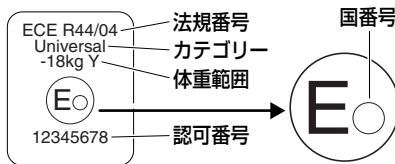
アドバイス

- この車のISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーは、2006年10月1日施行の新保安基準に適合しています。
これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。（表示されているマークや文字は、製品により異なります。）
- ISO FIX対応チャイルド シートであることを示す表示です。
文字はサイズ等級を表します。

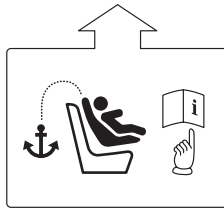


A——サイズ等級

- ECE R44 の認可マークです。
汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



- ISO FIX対応テザー アンカーの位置を示すマークです。
テザー アンカーの位置により、意匠は異なります。



- スバル指定の汎用（ユニバーサル）、および準汎用カテゴリーのチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはスバル販売店にご相談ください。



👉 アドバイス

- チャイルドシートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	仕様
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2と別形状のもの)
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート(キャリコット)
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート(キャリコット)

- キャリコットは横向きに取り付けることのできるチャイルドシート（ベビーシート）のことです。詳しくはチャイルドシートの製造業者、または販売業者にご相談ください。



チャイルド シートの固定のしかた

⚠警告

- チャイルド シートはリヤ シートに取り付けてください。
- 助手席にチャイルド シートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルド シートを使用してください。
また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付け使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルド シート（ジュニアシート）を使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。
- チャイルド シートを取り付けたときは、チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルド シートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートを固定しておいてください。また、カーゴルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車

- チャイルド シートに座らせている場合でも、ドアやシート、フロント・センター ピラー、ルーフ サイド部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



**△注意**

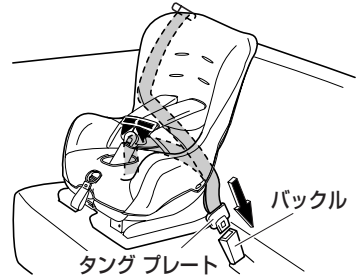
- 標準装備のシートベルトは大人用です。肩ベルトに首がかかるような小さなお子さまにはシートベルトの着用はさけ、チャイルドシートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

👉アドバイス

- チャイルドシートをリヤシートの運転席側に取り付けたときに、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。
(正しい運転姿勢→ 38 ページ)
- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に収納するか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シートベルトによる固定***▼取り付けかた**

1. チャイルドシートをリヤシートに置きます。
2. タングプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルドシートの中に通します。



3. バックルの中にタングプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

△注意

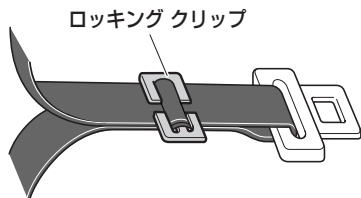
- タングプレートを差し込むとき、タングプレートでバックルを無理にこじらないでください。

* 固定のしかたは代表例です。

また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルドシートの形状とは異なります。



4. チャイルドシートにシートベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキングクリップを使用して固定します。



アドバイス

- ロッキングクリップの取り付けは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。また、ロッキングクリップの購入については、スバル販売店にご相談ください。

5. チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

注意

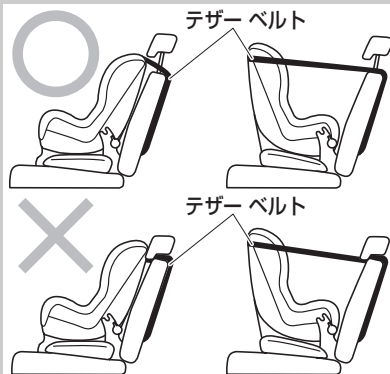
- チャイルドシートを固定したあと、シートベルトでチャイルドシートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。

ISO FIX対応ISO FIX 固定バー&テザー アンカーによる固定

- ▼ チャイルドシートを取り付ける前に

警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどのかみ込みとチャイルドシートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートを取り付けるときは、リヤシートのヘッドレストを最上段にしてから、テザーアンカーに固定してください。ヘッドレストを下げたままだと、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



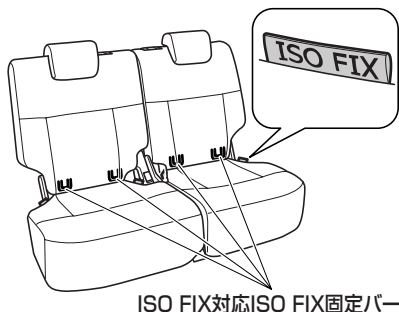


安全装備 お子さま専用シート

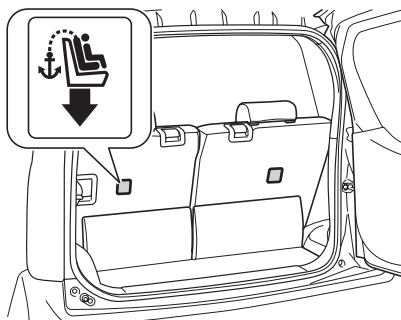
▼取り付けかた

1. ISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザーアンカーの位置を確認します。

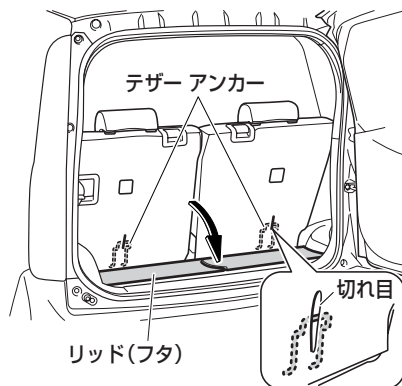
- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。



- テザー アンカーを示すマークが背当て裏側にあります。



- リッド (フタ) をめくり、背当ての切れ目から、テザー アンカーの位置を確認します。



2. リヤ シートのヘッド レストを最上段にします。
3. リヤ シートを後方いっぱいまでスライドさせます。
4. 適合するチャイルド シートの取り付け金具をISO FIX対応ISO FIX固定バー&テザー アンカーに連結して取り付けます。(取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください。)

📖 アドバイス

- チャイルド シートの取り付け金具が固定バーにとどかない場合は、背当てを倒してください。

金具の取り付け後は、チャイルド シートが安定するまで背当てを起こしてください。

5. 取り付けたチャイルド シートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認します。



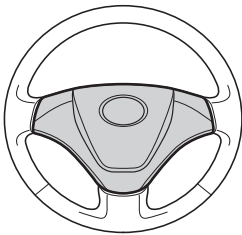
SRSエアバッグ

SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

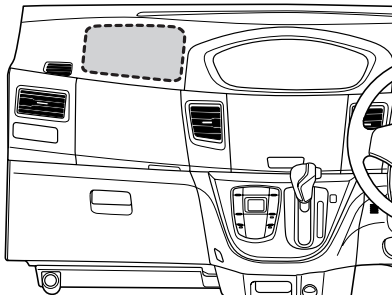
運転席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸への衝撃をやわらげる装置です。



助手席SRSエアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸への衝撃をやわらげる装置です。



警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシートベルトと併用して効果が出る装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用→ 47 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

* Supplemental Restraint System (サプリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助装置の意味です。

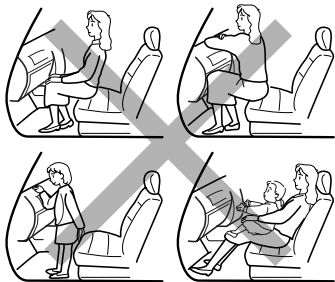




⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのをやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
- シートの前端に座ったり、インストールパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストールパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠警告

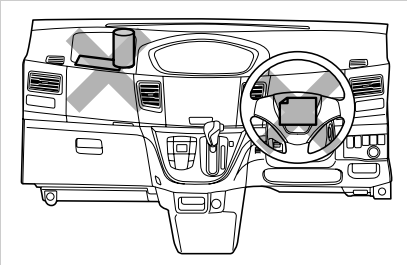
- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、チャイルドシートをリヤシートに装着して使用してください。
- 助手席に前向きや後ろ向きのチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。





⚠警告

- チャイルド シートの取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。
- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上にジュースや物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのスバル販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。



**⚠注意**

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウィンドウ ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。

⚠注意

- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ハンドルを取り外すとき
 - 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。
SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパット部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

👉アドバイス**SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ装着車の場合**

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
 - SRSエアバッグのみ作動
 - SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動
 - SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動

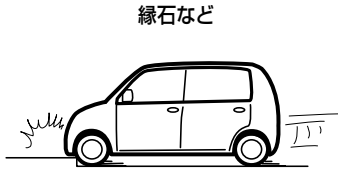


作動する場合

SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にプリテンショナー機構も作動します。

走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

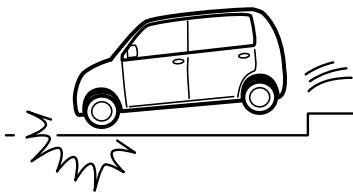
- 高速で縁石などに衝突したとき



- 深い穴や溝に落ち込んだとき



- ジャンプして地面に衝突したとき



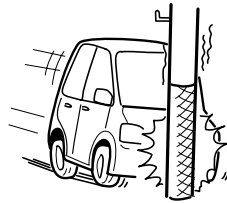
作動しない場合

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

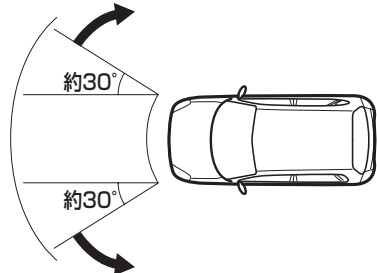
- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき



- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき

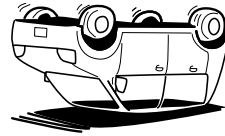




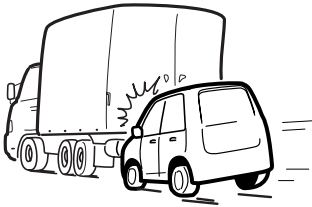
- SRSエアバック警告灯点灯時



- 車両が横転、転覆したとき

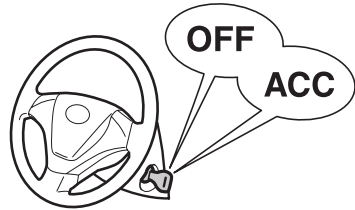


- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき



下記のようなときは、SRSエアバックが作動しません。

- 電源が“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき



下記のようなときも作動しないことがあります。効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき





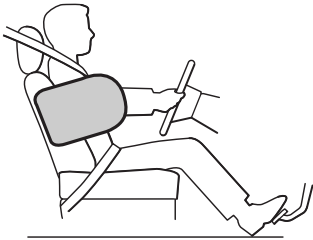
SRS*サイド エアバッグ& SRSカーテン シールド エアバッグ

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、車両側方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

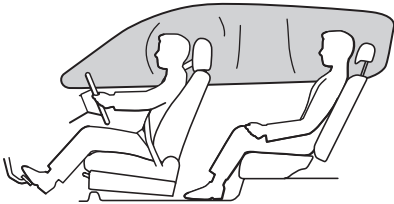
SRSサイド エアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。



SRSカーテン シールド エアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者・助手席同乗者・リヤシート左右席同乗者のおもに頭部への衝撃をやわらげる装置です。



* Supplemental Restraint System（サプリメント レストレイント システム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

⚠警告

- シート ベルトは必ず着用してください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグはシートベルトと併用して効果が出る装置でシート ベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しい着用→ 47 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア付近にもたれかからないでください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。



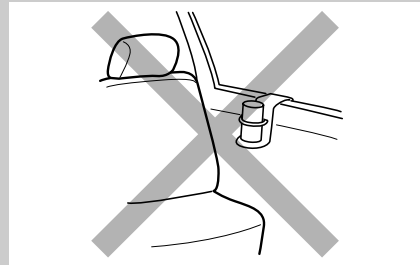


⚠警告

- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- おひさまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなおひさまは、チャイルド シートをリヤ シートに装着して使用してください。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けしないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが作動しないおそれがあります。
- フロント シート表皮の張り替えをしたり、フロント シート、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、スバル販売店にご相談ください。

⚠警告

- フロント シートにSRSサイド エアバッグ専用のスバル指定シート カバー以外は取り付けしないでください。フロント シート側面のSRSサイド エアバッグ展開部をおおうと、SRSサイド エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ドアやその周辺に専用のスバル指定品以外を取り付けしないでください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



- SRSカーテン シールド エアバッグ周辺部（フロント ガラス、フロント・リヤ ドア ガラス、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部）にアクセサリー、ハンズ フリー マイクなどを付けしないでください。SRSカーテン シールド エアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。



⚠警告

- フロント シート側部、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部などSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、スバル販売店にご相談ください。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずスバル販売店で交換してください。
- 下記のような場合は必ずスバル販売店にご相談ください。
お客様自身で行うと、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シート、フロント・センター・リヤピラー、ルーフ サイド部を取り外すとき
- 車両側部を修理するとき



**△注意**

- 車やSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSカーテン シールド エアバッグが収納されているフロント シート、フロント・センター・リヤ ピラー、ルーフ サイド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずスバル販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSカーテン シールド エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

👉アドバイス

- SRSエアバッグとSRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
 - SRSエアバッグのみ作動
 - SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動
 - SRSカーテン シールド エアバッグのみ作動

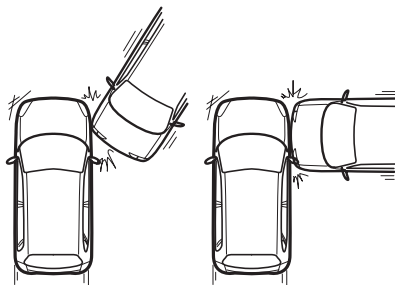
作動する場合

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグは車両側方から強い衝撃を受けたとき作動します。

作動しない場合

下記のような衝撃が弱いときには、作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき





SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。



- 電源を“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 電源が“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
(SRSエアバッグ→ 63 ページ)
- SRSサイド エアバッグ&
SRSカーテン シールド エアバッグ
(オプション/グレード別装備)
(SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド
エアバッグ→ 69 ページ)
- プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構
→ 51 ページ)

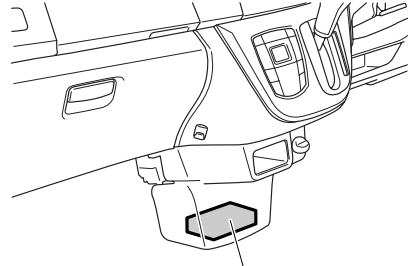
⚠注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。



SRSエアバッグ コンピューター

⚠注意

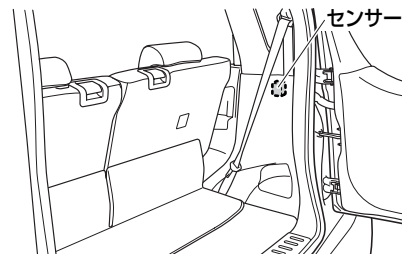
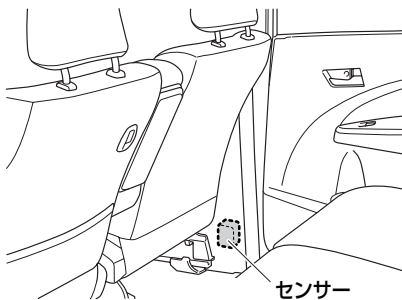
- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRSエアバッグ、SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ (オプション) が誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、ジュースなどをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。スバル販売店で交換してください。



SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン
シールド エアバッグ センサー

オプション/グレード別装備

SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ センサーはフロントシート・リヤシート付近の車体左右両側に取り付けられています。



⚠注意

- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ センサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSサイド エアバッグ&SRSカーテン シールド エアバッグ センサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。



ABS

ABS* (EBD機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution (電子制動力配分制御) の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤ チェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System (アンチロック ブレーキ システム) の略です。



👉 アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- 電源を“ON”にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

👉 アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ*はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

VDC・TRC

VDC* (ビークル ダイナミクス コントロール)

オプション/グレード別装備

VDCは、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキ介入機能を備えています。

- VDC OFFスイッチを3秒以上押し、メーター内のVDC作動表示灯とVDC OFF表示灯が点灯しているときは、VDC (TRCを含む) は作動しません。
(VDC OFFスイッチ→ 154 ページ)
(VDC OFF表示灯→ 135 ページ)
- VDCが作動すると、VDC作動表示灯が点滅し、警告ブザー (断続音) が鳴ります。
(VDC作動表示灯→ 136 ページ)
- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。
(タイヤの点検→ 299 ページ)

⚠警告

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC作動警告ブザー (断続音) が鳴ったり、VDC作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(VDC作動表示灯→ 136 ページ)

⚠注意

- タイヤは4輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンおよび摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどにはVDCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

* 本書では、VSCを「VDC」と表記しています。

* VDCは、Vehicle Dynamics Control (ビークルダイナミクスコントロール) の略です。





アドバイス

- VDCは、車速が約 15km/hを超えると作動できるようになります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジン ルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ブレーキ介入について

- VDCの“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキ ペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキ介入機能が作動してブレーキが強くなり、作動音とともにブレーキ ペダルが小刻みに動くことがあります。異常ではありません。

TRC*

オプション/グレード別装備

○ TRCのはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイール スピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- VDC OFFスイッチを押して、メーター内のVDC作動表示灯が点灯しているときは、TRCは作動しません。
(VDC OFFスイッチ→ 154 ページ)
- VDC OFF表示灯が点灯しているときは、TRCは作動しません。
(VDC OFF表示灯→ 135 ページ)
- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。
- TRCが作動すると、VDC作動表示灯が点滅し、警告ブザー（断続音）が鳴ります。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。
(VDC作動表示灯→ 136 ページ)

* TRCは、Traction Control（トラクション コントロール）の略です。



- めかるみや新雪からの脱出時などは、TRCが作動していると、脱出することができない場合があります。この場合、VDC OFFスイッチを操作することで、TRCを停止することができます。

(VDC OFFスイッチ→ 154 ページ)

○TRCのしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、スリップを制御させます。

○TRCとタイヤの関係

TRCは、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 299 ページ)

⚠警告

- TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、VDC作動表示灯が点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(VDC作動表示灯→ 136 ページ)

⚠注意

- タイヤは4輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンおよび摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着するとTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどにはTRCが正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

👉アドバイス

- 通常は電源を“ON”にすると、TRCが作動可能状態になります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。



